

平成 29 年度

第 3 期中期計画 評価報告書

社会福祉法人島根県社会福祉協議会

人・そだて 人・ともに 人・くらす わが^まち^ち島根づくり

《使命》

人・そだて 人・ともに 人・くらす わが島根^{まち}づくり

－説明－

- 「人」「人」「人」・・・一人ひとりの尊厳を重んじる姿勢を表現
- 「人・そだて」・・・福祉に関わる人材・団体の育成や、地域における子育て支援などの人材育成のイメージを表現
- 「人・ともに」・・・住民同士のつながり(共助)、住民と施設・団体、団体同士のつながり(協働)など人に関わるネットワークのイメージを表現
- 「人・くらす」・・・人と人が支え合いながら地域で安心して暮らし続ける地域福祉のイメージを表現
- 「わが」・・・・・・・・地域への愛着を表す
- 「島根(まち)」・・・「島根」をあえて「まち」と呼ぶ。県社協のフィールドは県全体であり、県全体をひとつの「まち」と捉える。常に県全体を見渡した視野の広い活動を行うことを表す
- 「づくり」・・・・・・・・島根の福祉に必要なものをつくりだしていく、そして地域に普及・定着していく創造的・先導的な姿勢を表す

《経営理念》

- ・ 私たちは、一人ひとりの尊厳が重んじられ、だれもが互いに支え合っ
て心豊かに暮らすことのできる島根^{まち}づくりに貢献します。
- ・ 私たちは、県民主体・会員主体を活動の基本におき、幅広い分野・
団体との連携・協働を進めます。
- ・ 私たちは、常に豊かな想像力と自主性をもって先駆的事業の開発
に挑戦します。
- ・ 私たちは、社会環境の変化と埋もれたニーズを敏感に捉え、広く関
係者の英知と行動力を結集し、共に提言活動を行います。
- ・ 私たちは、絶えず本会経営基盤の強化・刷新に取り組みます。
- ・ 私たちは、本会が地域福祉推進の中核団体として信頼・満足される
よう、日々自らの人格を磨くとともに、専門性と実践力を高めます。

島根県社会福祉協議会では、本会の「使命」と「経営理念」を上記のとおり確認し、
つぎのようなシンボルロゴマークもつくりました(2009年5月)

人・そだて 人・ともに 人・くらす わが島根^{まち}づくり

平成29年度第3期中期計画の評価にあたって（総括）

この度、中期計画評価委員会は、「第3期中期計画」の内部評価書の検討、および同計画の取り組み状況についての評価を行った。第3期中期計画の期間は、平成27年から29年度までの3か年であった。今回の委員会での議論は、単年度のみならず、3年間の計画への取り組みについての総括も含んでいる。

以下、平成29年度の社会福祉を取りまく状況と島根県社会福祉協議会の活動について、委員会での議論を踏まえて述べたい。

第一は、地域福祉の諸活動が政策と関連して展開されるようになった点である。たとえば、高齢者の生活支援を市町村事業として実施することが求められるようになった。高齢者福祉サービスの主体（担い手）が社会福祉法人、NPO法人、営利法人などの各種法人だけに限定されなくなった。住民によるサロン活動やボランティアによるちょっとした手助けなども、介護保険制度の財源を活用して行いうる制度設計がなされた。また、社会福祉法人の地域貢献にしても、社会福祉法第24条に位置づけられた。これについては、各市町村で社会福祉法人の連絡会が結成され、実施の準備がなされつつある。第3期中期計画は、これらの活動を後押しするものであった。

第二は、社協が個別支援を行うための条件整備が進展したことである。特に、平成27年から生活困窮者自立支援制度が始まったことは、社協業務にとっても大きな影響を与えた。第3期中期計画でも、生活困窮者等への住居支援、および中間的就労立ち上げ支援がなされた。今後も、就労の場を開拓したり、福祉分野以外との連携をはかったり、という視野の広いソーシャルワーク実践を後押しする事業が期待される。

第三は、福祉人材の確保と定着についてである。この3年間は、全国的にも介護・保育人材確保の困難が課題であった。島根県でも、第3期中期計画当初から人材不足の深刻さが常に議論された。ただ、この間、保育所エルダー制度といった独自事業も開始された。また、研修の充実や事業者ニーズの把握といった点でも進展があった。人材確保困難は、一県の取り組みのみでは根本的に解消しえない。それでも、県内の関係者が、働きやすい環境を模索する活動を現場レベルで継続してきたことは、中期計画3年間の成果であったといえる。

平成30年5月25日

島根県社会福祉協議会中期計画評価委員会
委員長 加川 充 浩

第3期中期計画重点項目 評価一覧

A: 順調に進んでいる
 B: 概ね順調に進んでいるが見直す点もある
 C: あまり順調に進んでいない

テーマ 「しまね流ふくし」の推進に向けた新たな支え合いのための基盤づくり

重点項目	評価
1 地域が一体となった子育て・子育て支援の推進	B
2 社会福祉法人を核とした「ふくしで地域創生」の推進	B
3 ファンドを活用した新たな支え合いの推進	C

テーマ 誰もが社会の中でいきいきと活躍できる共生社会の実現

重点項目	評価
1 「ふくしの学び合い」の推進	B

テーマ 県域及び市町村域における包括的なセーフティネット機能の強化

重点項目	評価
1 ふくしが支える地域安心生活保障の推進	/
(1) ふくし安心生活支援ネットワークの形成	B
(2) 地域安心生活を総合的に保障する仕組みの創設	A
(3) 社会的居場所や就労の場の開拓と中間的就労の立ち上げ	B

テーマ 福祉サービスの確保と質の向上

重点項目	評価
1 福祉人材の確保・定着支援の推進	/
(1) 福祉人材センター運営事業	A
(2) 福祉・介護人材マッチング支援事業	A
(3) 介護職への再就職支援コーディネート事業	B
(4) 介護未経験者に対する研修支援事業	B
(5) 保育士・保育所支援事業	B
(6) 修学資金貸付	A
(7) 福祉サービス事業従事者研修の実施	A
(8) 事業者の人材育成・定着化に向けた個別支援	A

第3期中期計画重点項目ごとの進捗状況及び評価内容

「しまね流ふくし」の推進に向けた新たな支え合いのための基盤づくり

1 地域が一体となった子育て・子育て支援の推進

[中期目標（平成27年度～平成29年度）]

子育て家庭の不安感や負担感の軽減、孤立を防ぎ、子ども自身が心身共に成長する力をつけることができる子育て・子育て拠点づくりモデルを開発・普及する。

重点項目 地域が一体となった子育て・子育て支援の推進 — 島根県社協 第3期中期計画（平成27～29年度） —

目標を達成するための主な取り組み

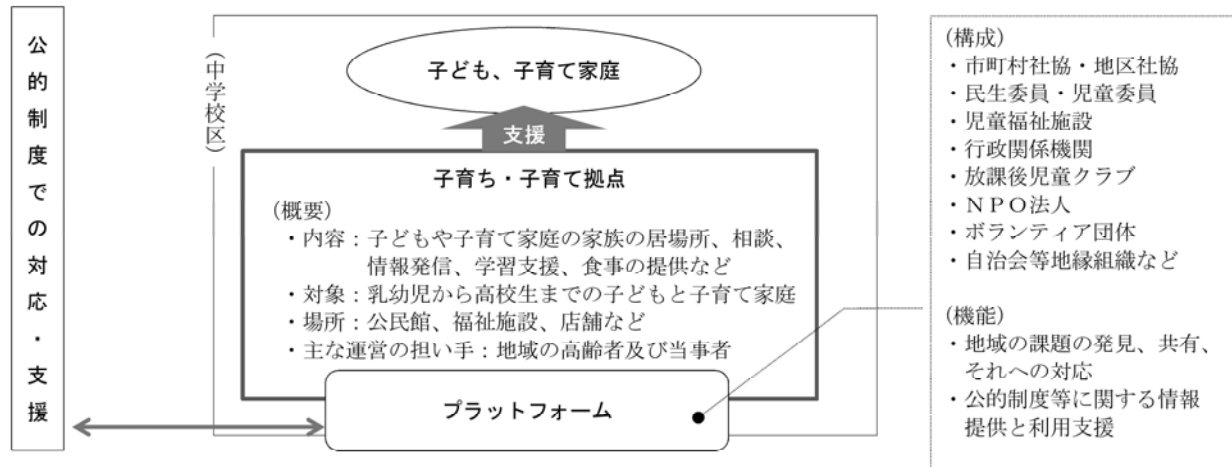
①地域が一体となった子育て・子育て拠点づくりモデルの開発

身近な地域において子育て・子育てを支える関係者を中心に支え合いを基本としたプラットフォームを形成し、親同士、子ども同士、大人と子どもの交流、情報交換、身近な相談など地域住民が交流することで、子育て家庭の不安感や負担感の軽減や孤立を防ぐとともに、子ども自身が心身共に成長する力をつけることのできる地域の様々な担い手が参画した子育て・子育てを支える拠点づくりのモデルを開発します。

②子育て・子育て拠点づくりモデルの普及啓発

子育て・子育て拠点づくりの実践から得た立ち上げや推進手順を取りまとめ、研修会等の開催など様々な方法により普及啓発を図ります。

【地域が一体となった子育て・子育て拠点のイメージ】



[平成 29 年度目標]

「地域が一体となった子育て・子育て拠点づくりモデル事業」について、平成 27 年度からのモデル地域における子育て・子育て支援活動の定着を図るとともに、活動の全県展開・普及を見据えて新たにモデル地域を選定し、地域資源を活用したネットワークづくりを推進する。

[平成 29 年度の取り組み状況]

平成 29 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見
<p>(1)子育て・子育て拠点 づくりモデル事業 法吉地区子育て支 援ネットワーク会 議の運営</p> <p>なないろ食堂運営 委員会への参画</p>	<p>松江市法吉地区でのモデル事業（継続）のうち、未就学児親子を対象に毎月 2 回活動している「比津にこにこクラブ」の 4/25 から 3/27 まで 22 回の延べ参加者数は親子 241 組、地域ボランティア 46 名、イベント参加者 117 名。</p> <p>小学校 4～6 年生を対象に毎月 2 回開催している学習支援活動「ほっき寺子屋」の 4/20 から 3/15 まで 22 回の延べ参加者数は 255 人。利用登録児童 21 名、島根大学生ボランティア登録者 10 名、地域ボランティア登録者 11 名（うち教員 OB 6 名）。</p> <p>本会の委託事業としては今年度で終了となるが、2/21 に「法吉地区子育て支援ネットワーク会議」を開催し、来年度からは松江市教育委員会の「松江てらこや」事業としての継続実施を目指すことが確認された。</p> <p>松江市大庭地区における食事提供型居場所「なないろ食堂」は、原則として毎月 1 回開催のところ、7～8 月は夏休み企画として毎週開催し、4/15 から 3/17 まで 16 回の延べ参加者数は子ども 364 人、保護者等大人 108 人、ボランティアは 381 人。</p>	<p>【成果】 比津にこにこクラブでは、開設当初から保護者が企画運営に関わっており、自発的で活発な活動ができています。子どもの成長に伴い、保護者が支援される側から担い手側へ回るなど、スタッフ確保も順調である。</p> <p>【課題】 保護者から希望のあった開催回数の増はボランティアスタッフの確保等の課題がある、また、同じく要望のあった学習面の指導強化については、子どもたち自身の思いとの相違があると考えられる。</p> <p>今後は地域の関係者において学習支援型居場所としてのあり方について検討等されていくことになるが、本会としても引き続き情報提供等側面的に支援していく。</p> <p>【成果】 「なないろ食堂」は、子どもたちだけでなく乳幼児親子や祖父母の参加があるなど、多世代交流や地域交流の場として小学校や地域住民からの理解が広がってきている。</p> <p>夏休み企画には初参加の子どもも多く、</p>	<p>B</p>	<p>評価妥当</p> <p>モデル事業が契機となって、教育委員会の事業につながったり、具体的な取り組みにつながることは、活動が全県的に広がっていく上で重要である。</p> <p>モデル事業の成果と課題を整理して、子ども食堂等の取り組みに政策的な支援が進むよう働きかけをしてはどうか。</p> <p>モデル事業の活動を通じて教育機関の理解が段々と得られるようになったのは、大きな成果ではないか。</p>

<p>子育て・子育て拠点づくり推進助成事業</p>	<p>「地域が一体となった子育て・子育て拠点づくり」の展開・普及を図ることを目的として実施した「子育て・子育て拠点づくり推進助成事業」では、2ヶ所（市）の食事提供型居場所の新規立ち上げの支援を行った。</p>	<p>ボランティアや食材提供も市外の方からの協力があり、食事提供型居場所へのニーズや関心があることが把握できた。</p> <p>【課題】 学校等教育機関との連携や日常的に協力してもらえるボランティアの確保が課題である。 本会としては、来年度も運営委員会に参画し、食事提供型居場所に係る課題把握や運営者への情報提供に努める。</p> <p>【成果】 食事提供型居場所のない（少ない）市での地域連携による開設支援を意図したところ、いずれの地域とも実行委員会方式で地域資源を活用して運営されている。</p> <p>【課題】 全国的には「子ども食堂」の新設が珍しくなくなり、衛生管理など「質」の向上を目指す時期に入ったと言われているが、本県においては「量」的な拡充も目指していく必要がある。 今後も立ち上げを計画する住民や団体から相談があると考えられる。本会としては、助成金や衛生管理に関する情報の提供など、側面的な支援を継続していく必要がある。</p>	
---------------------------	--	---	--

<p>子ども食堂交流広場</p>	<p>子ども食堂運営者等の情報交換や交流を目的とした「子ども食堂交流広場」（継続）を3/11に開催したところ、県内19ヶ所（1ヶ所は休止中）の子ども食堂のうち、7食堂14名の参加があり、日頃の課題や悩みを共有し、食を通じた居場所のあり方などについて確認する機会となった。</p>	<p>【成果】 運営母体等の違いを超えて食事提供型居場所としてのあり方等基本的な事項について確認するとともに、ボランティアや資金確保等の課題を共有することができた。</p> <p>【課題】 食事提供活動に係る衛生管理について、引き続き県や関係機関と連携しながら、参加者と提供者の双方にとって安心安全な活動ができるような環境整備等を支援していく必要がある。</p> <p>また、子どもとの関わり方に関する研修の開催や、子どもの支援に係る他機関との連携についての情報を希望する声があったことから、今後、検討していく必要がある。</p>	
<p>子育て・子育て拠点推進フォーラム</p>	<p>平成27年度から取り組んできた「地域が一体となった子育て・子育てを支える拠点づくり」の総括として、子育て支援活動団体の関係者等を対象に、3/11に「子育て・子育て拠点推進フォーラム」を開催したところ、約50名の一般参加者があった。</p> <p>経済的に困難な家庭の子どもへ無料で学習支援を行うNPO法人理事長による基調講演では、貧困の連鎖や学習支援の必要性等について詳しく説明があり、参加者から好評であった。</p> <p>パネルディスカッションでは「地域が一体となった子育て・子育て拠点づくりモデル事業」に取り組んだ松江市内3ヶ所の居場所から発表を行ったところ、地域において継続して活動を行う必要性について理解が得られた。</p>	<p>【成果】 基調講演により、子どもの貧困や貧困の連鎖等の見えにくい問題を知ることができたとして、参加者には好評であった。</p> <p>また、モデル事業について、身近な地域で地道な取り組みがされていることに対して、参加者から理解が得られた。</p> <p>【課題】 年度末の催しの多い時期となったこともあったためか、フォーラムへの参加者が少なかった。同様の催しをする場合には、広報先や広報の方法・時期を検討する必要がある。</p>	<p>「地域が一体となった子育て・子育て拠点づくりモデル事業」としては今年で終了となるが、今後は蓄積したノウハウ等の普及を図るとともに、地域住民の関心が高く利用ニーズもあると考えられる食事提供型居場所の開発普及を目指す「食を通じた地域の居場所づくり支援事業」として展開していく。</p>

[評価] A：順調に進んでいる B：概ね順調に進んでいるが見直す点もある C：あまり順調に進んでいない

2 社会福祉法人を核とした「ふくしで地域創生」の推進

[中期目標（平成 27 年度～平成 29 年度）]

社会福祉法人・施設、社協と地域とが連携して「ふくしによる地域創生」に取り組む先進的な事業モデルを創出する。

重点項目2 社会福祉法人を核とした「ふくしで地域創生」の推進 - 島根県社協 第3期中期計画（平成 27～29 年度） -

目標を達成するための主な取り組み

施設・社協・地域連携事業（オールしまねの地域公益活動）モデルの創出

施設と社協、地域が連絡協議する場づくりや、地域のニーズに対応する協働事業を開発・実施するモデルを開発します。

施設・社協・地域連携事業の推進体制の整備

事業者団体、社協や行政等が「ふくしによる地域創生」の推進方策や課題等について研究協議する会議を開催します。

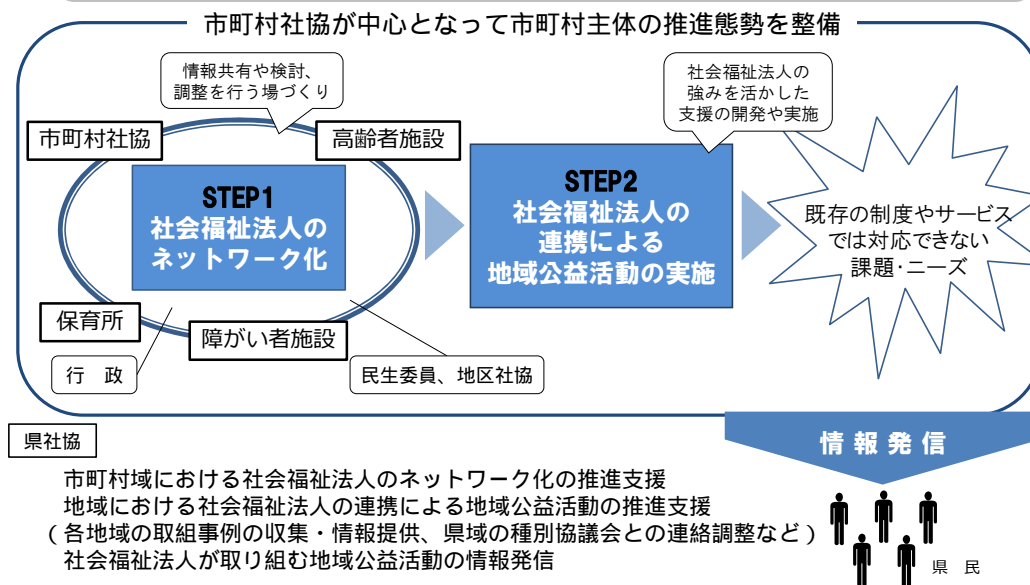
施設・社協・地域連携事業の普及・啓発

先行事例の研究や意見交換などを行う研究会を広域圏単位などで開催し、関係者の共通理解を図り、各地域での実践を促進する研究会を開催します。

【島根県における社会福祉法人の連携による地域公益活動のイメージ】

[目指す姿]

- 県内すべての地域で社会福祉法人が地域公益活動を実践している。
- この取り組みが県民をはじめ関係機関・団体に広く認知されている。



[平成 29 年度目標]

県内の社会福祉法人が連携し、それぞれの強みを活かして既存の制度やサービスでは対応できない生活・福祉課題の解決を図る取り組み（地域公益活動）を県域の種別協議会や市町村社協と協働して推進する。

また、この取り組みが県民をはじめ関係機関、団体に広く認知されるよう、積極的に情報発信していく。

[平成 29 年度の取り組み状況]

平成 29 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見								
<p>(1) 連携による地域公益活動推進事業 島根県地域公益活動推進連絡会の設置、運営</p>	<p>市町村域の社会福祉法人のネットワーク化の進捗状況等から新たな県域の連絡会議の設置は見送り、島根県社会福祉団体連絡協議会（県域の社会福祉団体 27 団体で構成）の連絡調整会議において情報共有・情報交換を行った。 （9月6日・いきいきプラザ島根・14名）</p>	<p>【成果】 各市町村の社会福祉法人によるネットワーク化の進捗状況</p> <table border="1" data-bbox="1234 635 1742 810"> <thead> <tr> <th>進捗状況</th> <th>市町村数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ネットワークがある</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>（ネットワーク化に向けて） 他の社会福祉法人と協議中</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>社会福祉法人が1法人のみ</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>		進捗状況	市町村数	ネットワークがある	11	（ネットワーク化に向けて） 他の社会福祉法人と協議中	7	社会福祉法人が1法人のみ	1	<p>評価妥当</p> <p>法人数が少ない自治体は、市町村域を超えた広域のネットワークを検討してはどうか。</p>
進捗状況	市町村数											
ネットワークがある	11											
（ネットワーク化に向けて） 他の社会福祉法人と協議中	7											
社会福祉法人が1法人のみ	1											
<p>社会福祉法人のネットワーク化及び連携による地域公益活動の推進</p>	<p>市町村社協を核とした地域における社会福祉法人のネットワーク化を進め、新たに出雲市及び江津市において社会福祉法人連絡会が立ち上がった。 また、地域公益活動の具体的な推進方策等について理解を深めるとともに、各法人における地域公益活動への取り組みを促進することを目的に、社会福祉法人地域公益活動推進セミナーを開催した。 （10月26日・朱鷺会館・105名）</p>	<p>【課題】 各地域で社会福祉法人のネットワーク化が進みつつあるが、一方でネットワーク化が進まない地域や法人連絡会等による具体的な事業・活動につながっていない地域もある。 市町村間の情報交換の場の設定やアウトリーチによる個別支援等を通じて市町村単位の取り組みを一層促進していく必要がある。</p>		<p>B</p> <p>県内の社会福祉法人が共有できる具体的な取り組みの事例があるといいのではないか。</p>								
<p>情報発信の仕組みづくり及び実施</p>	<p>本会ホームページにおいて「地域における公益的な取組」の概要及び市町村域のネットワーク化の状況等について情報発信を行った。</p>			<p>県社協には、種別団体等を通じての最新情報の提供など、機運醸成をしてもらいたい。</p>								

[評価] A：目標を達成した B：概ね目標を達成したが見直す点もある C：目標が達成できなかった

3 ファンドを活用した新たな支え合いの推進

[中期目標（平成 27 年度～平成 29 年度）]

「新たな支え合いファンド」が周知され、生活・福祉課題の解決を目指し、高齢者等が主体となった支え合いサービス実践に向けた気運が高まっている。

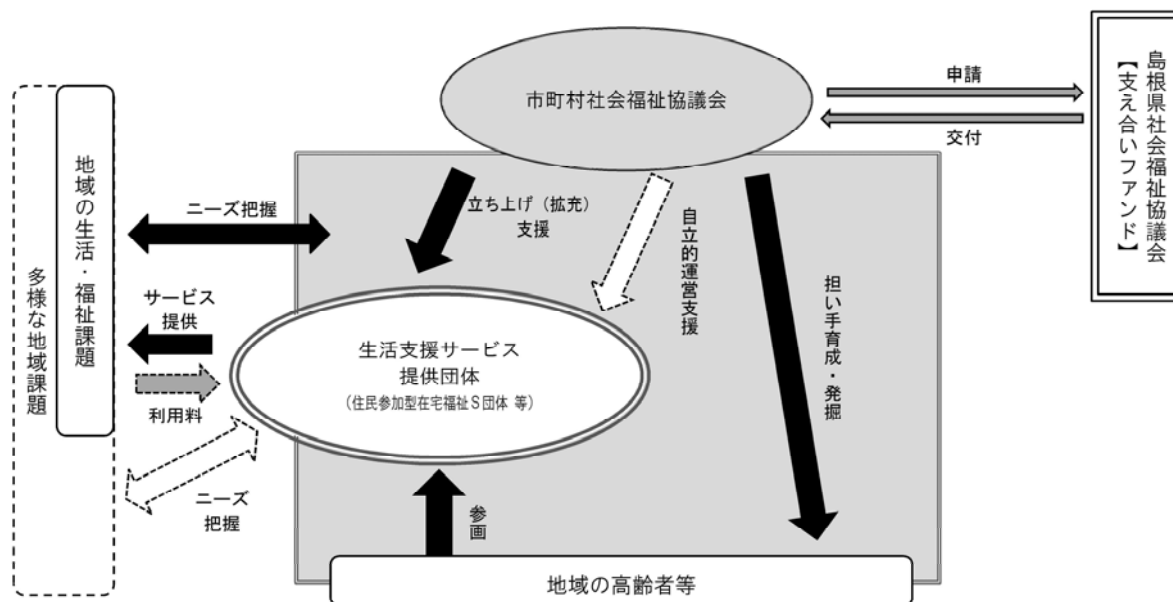
重点項目3 ファンドを活用した新たな支え合いの推進 — 島根県社協 第3期中期計画（平成27～29年度） —

目標を達成するための主な取り組み

「新たな支え合いファンド（仮称）」

市町村社協が核となり実施する、住民組織（生活支援サービス提供団体）の立ち上げ（又は拡充）を支援するための事業費助成をします。

【新たな支え合いファンド事業のイメージ】



取組（例）

- ・ 地域特性とニーズの把握、対応すべきニーズの再確認 ・ 新たなサービスの開発 ・ 活動参加の呼びかけと担い手育成
- ・ 多様な社会資源の活用とネットワーク化 ・ サービス提供体制の構築と総合的な相談援助体制へのつなぎ
- ・ 地域での活動基盤づくり（情報提供、福祉教育）等

[平成 29 年度目標]

「新たな支え合いファンド助成事業」を活用した高齢者等地域住民が主体となった支え合い活動の一層の推進を図るため、昨年度助成した市町村社協における実践ノウハウを広く他の市町村社協に提供し、新たな支え合い活動の立ち上げ・拡充につなげる。

[平成 29 年度の取り組み状況]

平成 29 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見
(1) 新たな支え合いファンド助成事業 新たな支え合いファンド助成金の募集 ホームページ等による事業の広報啓発 審査会の運営	平成 28 年度から本助成事業がスタートし、平成 28 年度分の募集は、安来市・隠岐の島町の 2 件・2 団体の申請になっている。 29 年度分の募集については、県社協広報「だんだんたより」への掲載、県民活動情報サイトいきいき広場での広報を行った。また追加募集等も行った結果、松江市・江津市の 2 件・3 団体の申請となっている。 助成件数が伸び悩んでいるため、広報・周知だけではなく、市町村社会福祉協議会会長・常務・局長が集う場等において、本ファンドについての課題等の確認を行った。そうした場や市町村社協訪問を通し把握した意見・要望等を踏まえ、本事業の一部改正を行った。 その結果、30 年度第一次申請分については、3 社協 5 団体と件数が増えている。30 年度第二次申請分は 30 年 4 月～6 月に募集予定。	【成果】 当初予定していた申請数（年 10 件）には至らなかったため、市町村社協訪問・広報を行い、かつ市町村社協の意見を踏まえ一部要綱の改正を行った。 その結果、30 年度第一次募集に係る申請件数が増えた。また、30 年度第 2 次募集分についても 2 社協から相談を受けている。 【課題】 件数は徐々に増えてきているが、当初予定していた申請数には至っていない。 また、申請内容も高齢者のみを対象としたものが多く、生活のしづらさを抱えた住民全体を対象としたものは少ない。 今後も広く周知を図るとともに、市町村社協の現状を把握し、新ファンド活用に向けての具体的な活動展開と一緒に考えていく必要がある。	C	評価妥当 郡部や中山間地域からもっと応募してもらいたい。 地域自主組織などある程度組織的なものがあれば、ファンドの受け皿になりやすいのではないかと。 ファンドを活用していないが地域で助け合い活動に取り組んでいる団体は少なからずある。

[評価] A：目標を達成した B：概ね目標を達成したが見直す点もある C：目標が達成できなかった

誰もが社会の中でいきいきと活躍できる共生社会の実現

1 「ふくしの学び合い」の推進

[中期目標（平成 27 年度～平成 29 年度）]

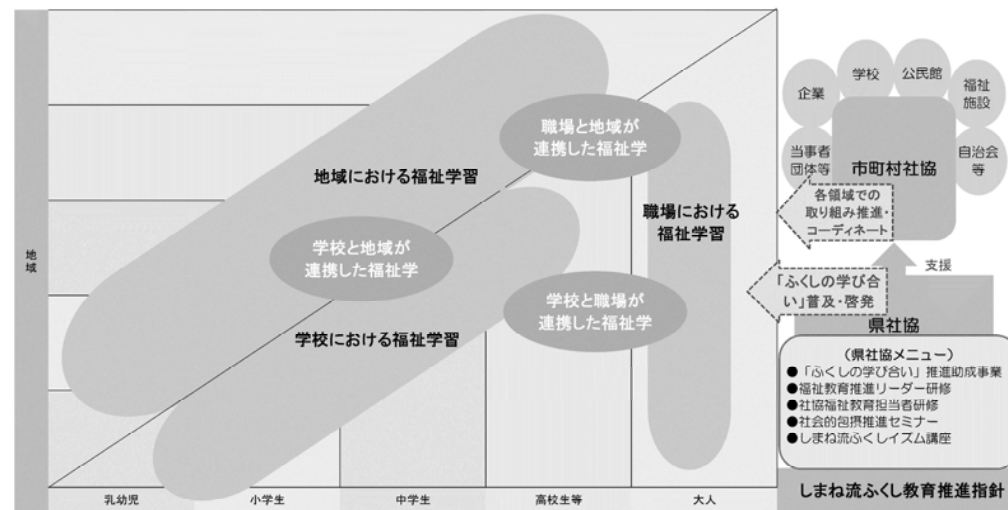
長期ビジョン実現に向けた「福祉教育指針」策定と同指針に基づいた事業が、市町村社協を中心に展開されている。

重点項目4 「ふくしの学び合い」の推進 — 島根県社協 第3期中期計画（平成 27～29 年度） —

目標を達成するための主な取り組み

- ①しまね流ふくし教育推進指針(プログラムを含む)の策定
長期ビジョンの実現に向けて、福祉教育推進事業検討小委員会の提言(H27.3 予定)を踏まえながら、平成 28 年度以降の本会福祉教育のあり方を示す指針を策定します。
- ②しまね流ふくし教育推進事業(仮称)の実施
 - (1)地域を基盤としたふくしの学び合いの推進
学校、地域、社会福祉施設、企業、社協が連携した福祉教育を推進するため、地域をモデル指定するなどして、社会的包摂に向けた福祉教育、企業に対する福祉教育などその取り組みを支援します。
 - (2)小中学生のための「しまねふくしイズム講座」の開設
小中学生に対して、たすけあいや支えあいの心、福祉・介護の仕事のやりがいや魅力を認識してもらうことにより、福祉マインドの醸成を図ります。

ライフステージや生活場面等に応じた「ふくしの学び合い」の全体図



福祉の心の醸成～地域に暮し・地域を考え・地域を支える福祉の学び合い～
 (学ぶ過程) 感覚を養う ⇒ 関心を持つ・課題を認識する ⇒ 課題解決の方策を考える ⇒ (実践の過程) 活動を実践する ⇒ 活動を振り返る

[平成 29 年度目標]

「しまね流ふくし教育推進指針」に基づき、市町村社協と協働しながら、地域を基盤に県民一人ひとりのライフステージや生活場面等に応じた「ふくしの学び合い (= 福祉学習プログラム)」を通じて福祉の心の醸成を図っていく取り組みを積極的に推進していく。

また、昨年度作成した「高齢者・障がい者事業所における中学生職場体験の手引き～福祉・介護のやりがいや魅力を伝えるために～」の活用を図り、各事業所での将来の福祉人材確保に向けた取り組みを支援する。

[平成 29 年度の取り組み状況]

平成 29 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価	評価委員による 評価・意見	
(1)しまね流ふくし教育推進事業 福祉教育推進協議会	7/24 第 1 回開催 「ふくしの学び合い」推進助成事業実施状況について実践事例報告、H29 年度事業概要について報告 3/12 第 2 回開催 H29 年度度事業実施状況について報告、H29 年度事業計画について協議	<p>【成果】</p> <p>平成 27 年度に「しまね流福祉教育推進指針 (H28～H31)」を策定し、指針に沿った事業展開を着実に行うことができた。</p> <p>「しまね流ふくし教育推進指針」に基づき実施した研修等はいずれも参加者に好評 (良かった、大変良かったの全事業平均が 90.9%) であった。</p> <p>「ふくしの学び合い」推進助成事業の実施市町村社協では、福祉学習プログラムを活用した学校・地域での福祉教育を展開するなど、一定の成果があった。</p> <p>【課題】</p> <p>市町村社協と福祉事業所、公民館、企業等との連携を強化し、全ての世代での福祉教育の推進を図っていく必要がある。</p>	B	評価妥当
「ふくしの学び合い」推進助成事業	出雲市、大田市、邑南町、吉賀町、海士町で事業実施。福祉教育推進協議会委員により視察・助言 大田市社協 11/19 邑南町社協 11/22 出雲市社協 2/1 吉賀町社協 3/3			
福祉教育推進リーダー研修	9/8 浜田市いわみーるで開催。受講者 15 名			
福祉教育担当職員研修	5/12 いきいきプラザ島根で開催。受講者 12 名			
福祉教育推進セミナー	7/31 益田市総合福祉センターで開催。参加者 67 名			
しまねふくしイズム推進事業	10/30 高齢者福祉サービス経営セミナー (参加者 110 名) 3/5 島根県老人施設協議会第 2 回総会 (参加者 150 名) の開会前に説明周知。			

<p>「福祉教育の歩み」の発行</p>	<p>H28.29年度「ふくしの学び合い」推進助成事業の実践報告事例集として1,000部作成し、社協、小・中・高校等、公民館等に配布。</p>	<p>特に就労世代へのアプローチについては、人手不足等、企業環境が厳しさを増す中、今後も福祉教育推進協議会において検討を進める必要がある。これまで助成事業を終了した市町村社協でのその後の取り組みを把握し、フォローアップすることが出来てこなかったことから、今後は定期的に訪問し実態把握と助言を行うなどする必要がある。</p>	
---------------------	---	---	--

[評価] A：目標を達成した B：概ね目標を達成したが見直す点もある C：目標が達成できなかった

県域及び市町村域における包括的なセーフティネット機能の強化

1 ふくしが支える地域安心生活保障の推進

[中期目標（平成 27 年度～平成 29 年度）]

誰もが地域で安心して生活できる仕組みをつくる。

重点項目5

ふくしが支える地域安心生活保障の推進

— 島根県社協 第 3 期中期計画（平成 27～29 年度） —

目標を達成するための主な取り組み

①ふくし安心生活支援ネットワークの形成

県内各地で生活困窮者等の支援を行っている実践者や関係機関・団体等が相互に情報・経験の交換や共有等を行うネットワークを形成し、行政等との連携により、研修や共同事業などを企画・実施します。

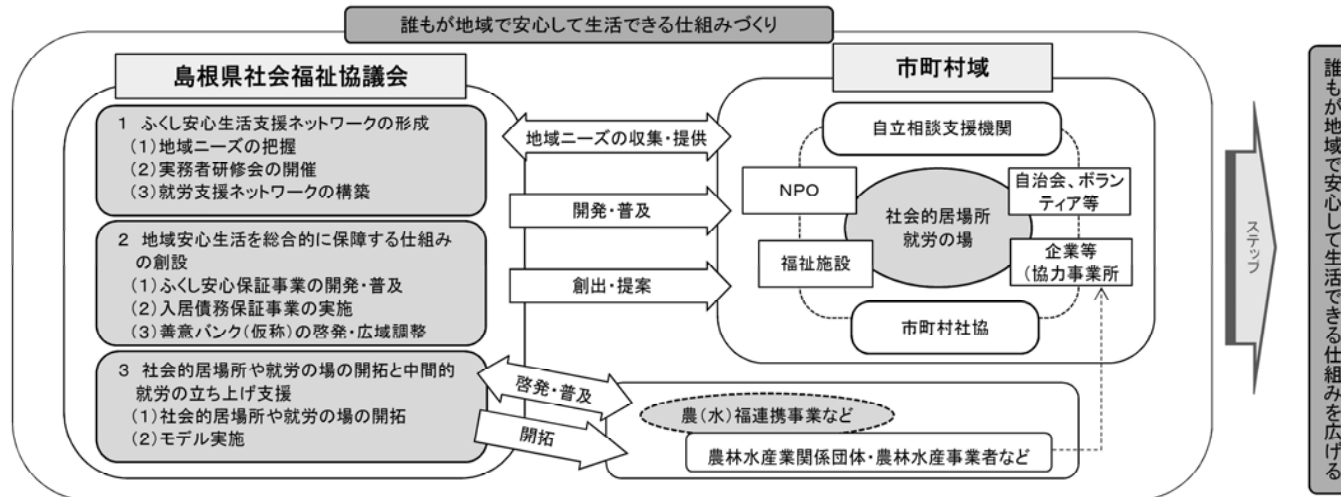
②地域安心生活を総合的に保障する仕組みの創設

地域で生活する上で障壁となる財産管理や身元保証など既存の制度では十分に対応できていない「制度の狭間」を保障する機能を地域のなかで担う仕組みを構築します。

③社会的居場所や就労の場の開拓と中間的就労の立上げ支援

生きづらさや働きにくさを感じている人たちが地域等とのつながりを強め、周囲から認められているという実感を得ることのできる居場所や就労の場を創出・開拓していきます。

【ふくしが支える地域安心生活保障のイメージ】



[平成 29 年度目標]

地域で生活する上で障壁となる財産管理や身元保証など、既存制度では十分に対応できていない「制度の狭間」を保障する機能を地域の中で担う仕組みの構築を推進するとともに、地域において取り組まれる生活困窮者等の居場所や就労の場の創出・開拓を支援する。
また、生活困窮者等の支援を行っている実践者等が相互に情報・経験の交換や共有等を行うネットワークの形成を推進する。

[平成 29 年度の取り組み状況]

平成 29 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見
(1)ふくし安心生活支援 ネットワークの形成 地域ニーズの把握	複合的な生活課題を抱える方に対する支援の状況や課題等を把握するため、県子ども・若者地域協議会、県居住支援協議会、松江市の運営協議会や安来市の居住検討会に参画するとともに、県主催の人材養成研修や西部地域（浜田市、益田市、江津市、津和野町、吉賀町）の担当者連絡会に参加した。（延べ 23 回）	【成果】 複合的な生活課題を抱える方に対する支援を行う機関の取組状況や緊急的な支援・就労支援などの課題を把握することにより、支援担当職員勉強会等のテーマや今後の事業構築の検討材料になった。 【課題】 生活困窮者自立支援事業、生活福祉資金貸付事業、日常生活自立支援事業など、様々な生活課題を抱える方への支援に携わる支援者に対し、引き続き勉強会、研修会等を通じたスキルアップ支援に取り組む必要がある。	B	評価妥当 生活困窮者支援にあたり発達障害を持つ人への対応が議論となった。
生活困窮者支援担当職員勉強会	〔第 1 回〕12/11・市町村社協職員等・25 名 〔第 2 回〕1/26・市町村社協職員等・24 名			20～30 代で、発達障害を持った方が、就職したものの早期に離職してしまい、ひきこもりになるようなケースが増えてきている。 企業側も、発達障害等で職場からリタイヤした方に復帰してもらいたいといった要望は多い。

平成 29 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見																																																																												
(2) 地域安心生活を総合的に保障する仕組みづくりの推進 ふくし安心保証事業の検討	局内、局外プロジェクトにおいて、高齢者・障がい者の入所施設の利用に関する身元保証人等の問題について、現状と課題を整理し、身元保証を補完する地域サービスの開発や地域連携事業等での身元保証のあり方を検討する際に活用できるよう報告書としてとりまとめ、広く配布した。 ヒアリングの実施 三次市社協・5/23、大分市社協・6/8、伊賀市社協 1/24 局内 第 7 回・6/26、第 8 回・11/27 局外 第 4 回・7/21、第 5 回・12/8	<p>【成果】 高齢者・障がい者の入所施設の利用の際、身元保証人を求めている状況やその役割などを実態調査によって把握できた。 身元保証人に求められる役割のうち既存の制度・サービスで対応できるもの、できないものの整理をし、報告書としてとりまとめ、広く関係者に配布することができた。 「住まいの確保」にかかる身元保証に関する課題を関係者間で共有するとともに、今後必要となるサービス等の開発に向けた機運づくりを行うことができた。</p> <p>【課題】 住まいの確保と生活安定のため、既存の制度の狭間にある方の生活を支える地域資源の開発・開拓が必要。</p>	A	<p>評価妥当</p> <p>身元保証等のあり方をまとめた報告書は非常に役に立った。</p>																																																																												
「住まい確保」と「身元保証」を考えるセミナー	上記でとりまとめた報告書の内容の周知、および身元保証に関係する支援者や住まいの提供者によるサービス等の開発を啓発するため、セミナーを開催した。 (2/28・支援関係者、住宅・入居施設関係者等 121 名)																																																																															
島根県入居債務保証支援事業	<p>今年度の契約件数 55 件（新規 32 件、契約期間満了に伴う再契約 23 件）累計契約数は 185 件となった。なお、契約終了が累計 101 件となったため、年度末契約中件数は前年度比 17 件増の 84 件となった。保証債務支払い件数は今年度 2 件発生し、累計 14 件となった。</p> <table border="1" data-bbox="331 1114 1272 1500"> <thead> <tr> <th rowspan="2">社協名</th> <th colspan="2">契約件数</th> <th colspan="3">終了件数</th> <th rowspan="2">契約中 件数</th> <th rowspan="2">契約 累計</th> </tr> <tr> <th>新規契約</th> <th>再契約</th> <th>満了</th> <th>満了後再契約</th> <th>解除</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県社協</td> <td>47</td> <td>1</td> <td>9</td> <td>24</td> <td>15</td> <td>0</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>松江市</td> <td>66</td> <td>42</td> <td>3</td> <td>18</td> <td>24</td> <td>63</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td>浜田市</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>益田市</td> <td>11</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>11</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>安来市</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>隠岐の島町</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>135</td> <td>50</td> <td>12</td> <td>49</td> <td>40</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td colspan="2">185</td> <td colspan="3">101</td> <td>84</td> <td>185</td> </tr> </tbody> </table>	社協名	契約件数		終了件数			契約中 件数	契約 累計	新規契約	再契約	満了	満了後再契約	解除	県社協	47	1	9	24	15	0	48	松江市	66	42	3	18	24	63	108	浜田市	5	2	0	2	1	4	7	益田市	11	4	0	4	0	11	15	安来市	5	1	0	1	0	5	6	隠岐の島町	1	0	0	0	0	1	1	小計	135	50	12	49	40			計	185		101			84	185	<p>【成果】 利用件数が伸びてきており、実施社協内での事業活用が定着してきた。 県内 1 町で新たに利用が始まった。 (利用実績 5 市町)</p> <p>【課題】 制度利用対象住宅の確保と拡大 ・公営住宅（県営、市町村営）への拡大と民間賃貸住宅取扱業者・賃貸人等の理解の拡大</p>	
社協名	契約件数		終了件数			契約中 件数	契約 累計																																																																									
	新規契約	再契約	満了	満了後再契約	解除																																																																											
県社協	47	1	9	24	15	0	48																																																																									
松江市	66	42	3	18	24	63	108																																																																									
浜田市	5	2	0	2	1	4	7																																																																									
益田市	11	4	0	4	0	11	15																																																																									
安来市	5	1	0	1	0	5	6																																																																									
隠岐の島町	1	0	0	0	0	1	1																																																																									
小計	135	50	12	49	40																																																																											
計	185		101			84	185																																																																									

年度	契約解除等件数				保証金 支払件数	支払額
	満了	満了後 再契約	解除	年度計		
H29	3	22	5	30	2	135,460
累計	97				14	1,155,810

<p>(3) 社会的居場所や就労の場の開拓と中間的就労の立ち上げ支援 社会的居場所や就労の場の確保支援</p>	<p>就労訓練事業所の立ち上げ支援のため、事業所を訪問し事業概要及び認定申請に向けての説明等支援を行った。 (出雲市内事業所、10/5)</p>	<p>【成果】 今年度末までに県内 23 事業所が就労訓練事業所に認定された。 (松江市 18、浜田市 1、出雲市 2、大田市 1、江津市 1)</p>		<p>評価妥当</p>
<p>生活困窮者就労訓練事業実践推進セミナー</p>	<p>認定就労訓練事業所における取組をさらに推進すること、ならびに、就労訓練事業についての理解を深め、新たに、就労訓練事業に取り組む事業所を身近な地域で創出していくことを目的として、セミナーを開催した。 (3/13・認定就労訓練事業所、生活困窮者自立相談支援機関等 38 名)</p>	<p>【課題】 地域貢献活動として社会福祉法人を中心に開拓を行い認定数は増えたが、地域別の偏りや利用実績が低調である。利用者の選択の幅を広げるため、地域における居場所の立ち上げや、企業等へ向けた開拓の取組が必要である。</p>	<p>B</p>	

[評価] A: 目標を達成した B: 概ね目標を達成したが見直す点もある C: 目標が達成できなかった

福祉サービスの確保と質の向上

1 福祉人材の確保・定着支援の推進

[中期目標（平成 27 年度～平成 29 年度）]

福祉の仕事の魅力が多様な主体から発信されるとともに、事業所においては働きやすく継続（定着）できる職場環境づくりへの取り組みが加速化している。

重点項目6 福祉人材の確保・定着支援の推進 - 島根県社協 第3期中期計画（平成 27～29 年度） -

目標を達成するための主な取り組み

学生向け福祉人材確保推進事業（「しまね福祉のお仕事ひろば（仮称）」）

県内外の養成校の学生とその保護者を対象とした就職情報を定期的に提供します。

中高年齢者向け介護職就職促進事業

事業所の中高年齢者を受け入れる環境整備を促進するための支援や求職者向け就業支援を実施します。

しまね保育士バンク制度（仮称）の創設

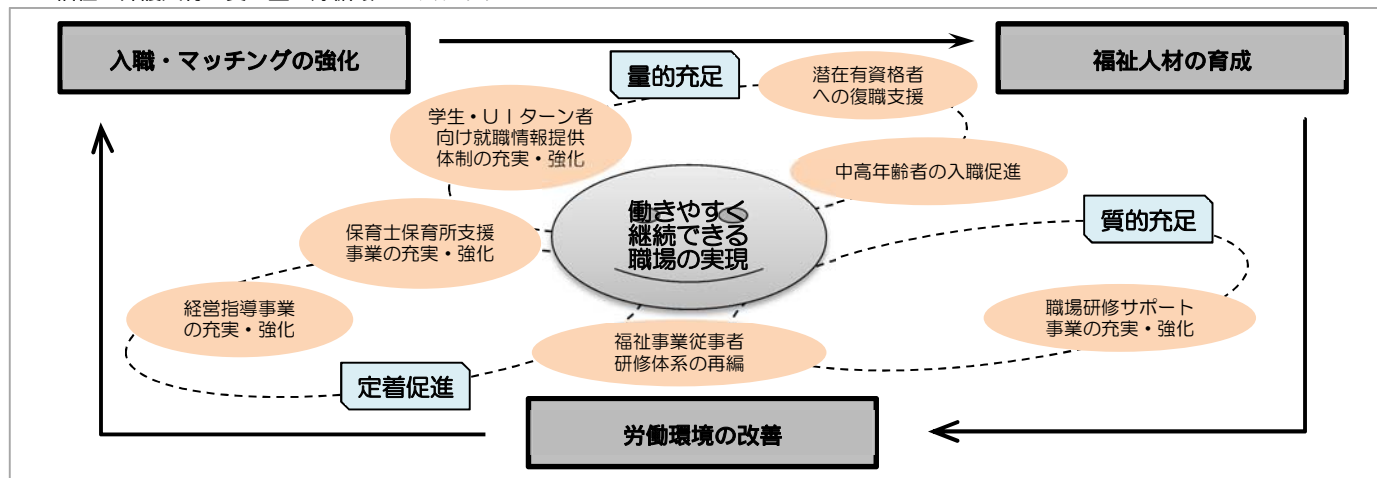
保育士資格保持者の保育士バンクへの登録を求めるとともに、離職者に対して離職後も「つながり」を確保し、効果的・総合的な支援を行うことにより、保育士の復職支援の強化を図ります。

福祉事業従事者研修体系整備事業

種別協議会や職能団体等の参画のもとにプロジェクト会議を設置し、本会研修事業体系のあり方やこの体系のもとに必要な独自研修を明らかにし、計画的に実施します。

【福祉人材の確保・定着支援の推進イメージ】

<福祉・介護人材の質と量の好循環へのステップ>



[平成 29 年度目標]

福祉職場における人材確保に向けて、新たに「離職介護福祉士・保育士等の届出支援システム（福祉人材バンク事業）」に着手することにより、有資格者等の再就職支援機能を強化するとともに、県内外養成校で学ぶ本県出身者の県内就職率を高める取り組みや、中高年・専業主婦層の介護資格取得の支援、さらには、法人・事業所における採用力向上の取り組みを進める。

また、福祉事業従事者研修事業については、「福祉職員キャリアパス生涯研修（4 コース）」を軸に、これを補完する人事・経営マネジメント研修を充実・強化するとともに、職場研修サポート事業の実施を通じて、法人・事業所におけるキャリア形成やキャリアパス構築を支援する。

[平成 29 年度の取り組み状況]

平成 29 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価	評価委員による 評価・意見
(1) 福祉人材センター 運営事業 無料職業紹介事業	<ul style="list-style-type: none"> 新規求人数：2,963 件（1,051 件） / [3,015] 新規求人数：4,974 人（1,629 人） [5,456] 新規求職者数：1,229 人（304 人） [1,252] 就職人数：348 人（80 人） [288] ()内は石見分室 []は前年同期実績	<p>【成果】 就職人数を前年度実績と比べて 60 名（前年度比 21%）増加させることができた。</p> <p>また福祉・保育の就職フェアの参加者数も、広報活動の強化やハローワーク等との連携を一層深めたことから、前年度実績と比べて 64 名（前年度比 26%）増加した。</p> <p>更に介護士バンクにおいては、登録者 183 名の内、約 4 割にあたる 73 名を就職に繋げることができた。</p> <p>【課題】 福祉人材の確保に向けて、求職者開拓が大きな課題であることから、県内外の就職ガイダンスの充実やハローワーク等との連携を一層強化していく必要がある。</p>	評価妥当 介護人材確保に非常に実績が上がっているので、うれしく思う。
福祉・保育の就職フェア	松江会場：5/13、くにびきメッセ、50 法人、108 名 / [128 名] 出雲会場：5/20、朱鷺会館、29 法人、126 名 / [85 名] 浜田会場：5/21、いわみーる、20 法人、80 名 / [37 名] 合計 99 法人、314 名 [250 名] []は前年同期実績		
運営委員会	第 1 回：H29/7/5 開催 第 2 回：H30/3/9 開催		
離職した介護人材の届出システム（介護士バンク）の設置・運営	バンク届出者：183 名（松江：130 名・浜田：53 名） 就職支援対象者：82 名（松江：54 名・浜田：28 名） 就職者数：73 名（松江：49 名・浜田：24 名）		

[評価] A：目標を達成した B：概ね目標を達成したが見直す点もある C：目標が達成できなかった

平成 29 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見
(2)福祉・介護人材マッチング支援事業 求人求職開拓及び就職相談・支援 県内外における就職相談会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 求人開拓：訪問事業所 278 力所（西部 113）[180] ・ マッチング：求人情報提供（求人情報誌） 相談者等への個別マッチング ・ 出張相談会：松江 11 回（ 22 名[前年度 10 名]） 出雲 10 回（ 51 名[31 名]） 大田 11 回（ 16 名[17 名]） 益田 11 回（ 22 名[21 名]） 合計 43 回(111 名[96 名]） ・ 養成校等就職ガイダンス 県内：実施回 36 回、参加者数 501 名 [実施回 33 回、参加者数 617 名] 県外：実施回 13 回、参加者数 130 名 [実施回 12 回、参加者数 231 名] ・ 他機関の就職フェア 県内：実施回数 6 回、参加者数 32 名 [実施回数 15 回、参加者数 31 名] 県外：実施回数 6 回、参加者数 43 名 [実施回数 2 回、参加者数 11 名] 	<p>【成果】 訪問件数が前年度実績と比べて 98 力所(前年度比 54%)増加するとともに、福祉の職場見学・体験についても利用者数が前年度より 113 名(前年度比 110%)増加した。 これらの成果が、結果として就職人数の増加に繋がっている。</p> <p>【課題】 福祉養成校等の学生及びその保護者に対して県内福祉情報を提供するサイト「しまね福祉・保育のお仕事ひろば」への登録者(事業所)の増と情報提供内容の充実が課題である。</p>	A	評価妥当
福祉・保育の仕事 就職・転職フェア しまね	H30/3/4(日)くにびきメッセ国際会議場 37 法人 96 名 / [97 名] []は前年度実績			
福祉・介護職場就職支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉・介護の就職支援セミナーを実施 松江会場：H29.12/5.6 いきいきプラザ島根 浜田会場：H29.11/30.12/1 いわみーる 松江会場参加者数：12/5（26 名）12/6（21 名） 浜田会場参加者数：両日ともに 12 名 			
福祉の職場見学・体験事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東部エリア：145 件（のべ 153 日） [58 件] ・ 西部エリア：71 件（のべ 82 日） [45 件] 合計：216 件、のべ 235 日（ 見学含む） 			

採用活動向上支援 セミナー	<p>【シリーズ1回目】 H29/11/14(火)実施(松江会場) 63 法人 参加者数 97 名 H29/11/15(水)実施(浜田会場) 33 法人 参加者数 75 名</p> <p>【シリーズ2回目】 H30/3/4(日)実施 27 法人 参加者数 52 名</p>																			
福祉人材の確保定着に関する調査	<p>・就職後追跡調査 人材センターの紹介により就職した者に対して職場定着に関するアンケートを実施して集計を行った。</p> <table border="1" data-bbox="542 507 1146 609"> <thead> <tr> <th>送付数</th> <th>回答数</th> <th>回答率</th> <th>定着率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>252 名</td> <td>62 名</td> <td>24.6%</td> <td>83.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・事業所調査 福祉サービス事業所に対して定着状況調査を行い、報告書を作成した。</p> <table border="1" data-bbox="542 737 1146 839"> <thead> <tr> <th>送付数</th> <th>回答数</th> <th>回答率</th> <th>定着率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>610</td> <td>243</td> <td>39.8%</td> <td>86.8%</td> </tr> </tbody> </table>	送付数	回答数	回答率	定着率	252 名	62 名	24.6%	83.9%	送付数	回答数	回答率	定着率	610	243	39.8%	86.8%			
送付数	回答数	回答率	定着率																	
252 名	62 名	24.6%	83.9%																	
送付数	回答数	回答率	定着率																	
610	243	39.8%	86.8%																	
新任介護職員育成 ガイドライン普及 啓発	<p>・新任介護職員教育担当者育成研修 松江会場：11/15、いきいきプラザ 浜田会場：11/29、いわみーる</p>																			
養成校学生の就業 体験連携事業	<p>・チラシを2,000枚作成し、県内外の福祉の養成校 213校へ送付</p>																			
しまね福祉のお仕 事ひろばの運用	<p>登録者：152名(学生140名・保護者12名) 登録事業所：182事業所 県内高等学校訪問の実施(41校)</p>																			

[評価] A：目標を達成した B：概ね目標を達成したが見直す点もある C：目標が達成できなかった

平成 29 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見
(3) 介護職への再就職 支援コーディネーター 事業 介護職員求人求職 開拓及び就職相 談・調査 県内における就職 相談会 再就職支援コー ディネーターによる 出張相談	介護士バンク バンク届出者 183 名 (松江 : 130 名・浜田 : 53 名) 就職支援対象者 82 名 (松江 : 54 名・浜田 : 28 名) 就職者数 : 73 名 (松江 : 49 名・浜田 : 24 名) 就職相談会 H29/10/20 雲南市役所 16 名 就職者 3 名	【成果】 介護士バンクについては、届出者ごとの相談記録票(カルテ)の作成を通じて就職ニーズ等をきめ細やかに把握したことにより、効果的なマッチングに繋がっている。 【課題】 届出者の増加に向けて更なる制度の周知(ポスター・チラシの配布等)が求められる。また、登録者への情報提供内容の質・量を更に充実させる必要がある。	B	評価妥当
(4) 介護未経験者に対する研修支援事業 介護入門研修 介護職員初任者研修	【STEP 研修】 ・松江会場 : 7/12~13 日、いきいきプラザ (参加者 20 名 うち求職登録 3 名) ・出雲会場 : 7/24~25 日、出雲市民会館 (参加者 10 名 うち求職登録 0 名) ・浜田会場 : 7/13~7/14、いわみーる (参加者 28 名 うち求職登録 4 名) 【STEP 研修】 ・松江会場 : 8/9~10 日、いきいきプラザ (参加者 18 名 うち求職登録 4 名) ・松江会場 : 9/1~10/10、松江市総合福祉サービスセンター(14 名 求職登録 13 名) / [前年度 7 名] ・浜田会場 : 9/1~10/20、いわみーる (19 名 求職登録 19 名) / [前年度 20 名]	【成果】 広報活動の充実を図り、定員を満たす参加者を得ることができた。 【課題】 介護人材の確保に向けて参加者数を更に増やし、福祉事業所への就職に繋げていく必要がある。	B	評価妥当

[評価] A : 目標を達成した B : 概ね目標を達成したが見直す点もある C : 目標が達成できなかった

平成 29 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価	評価委員による 評価・意見
(5)保育士・保育所支援 事業 保育士求人求職開 拓及び就職相談・ 支援	・ 保育所訪問件数：86（西部 41）[35(西部 15)] []は前年同期実績	【成果】 次代を担う保育実習生に対する旅費 支援事業に県外学生 108 名からの申込 みがあり、県内における保育実習や体験 の促進に繋がった。 また保育士バンクについては、ハロー ワークや養成校の協力を得て 126 名の登 録があり、保育士の潜在化を防ぐツール として機能し始めている。 更にエルダー制度導入事業において は、2 年間で 27 保育所が取組み、新人 職員の職場定着の一助となっている。 【課題】 保育士バンクについては、登録者の一 層の増加に向けた更なる制度の周知(ポ スター・チラシの配布等)を行うととも に、就職ニーズ等をきめ細やかに把握し て効果的なマッチングに繋げる必要が ある。	評価妥当
保育士養成校での 就職ガイダンス	・ 島根県内：5 ヲ所（160 人）[3 ヲ所(120 名)] ・ 中国地方：15 ヲ所（138 人）[13 ヲ所(298 名)]		
学生と保育所の合 同相談会	「福祉・保育の就職フェアしまね」を県内 3 会場で開催 ・ 松江会場（5/13） ：くにびきメッセ、14 法人、32 名 ・ 出雲会場（5/20） ：朱鷺会館、11 法人、47 名 ・ 浜田会場（5/21） ：いわみーる、9 法人、15 名 合計 34 法人、94 名[82 名] 参加者数と法人数は保育関係（介護等を除く）		
離島・県西部の保 育所における人材 確保への旅費助成	・ 隠岐：2 件（17,062 円）[0 件] ・ 県東部：3 件（29,555 円）[0 件] ・ 県西部：7 件（47682 円）[6 件 69,337 円] 合計：12 件（94,299 円）[6 件 69,337 円] []は前年度実績		
保育士就職支援セ ミナー	・ 9/19～20 開催（県松江合同庁舎） 参加者数：19 日 16 名、20 日 14 名		
しまね保育士確保 定着推進会議	・ 第 1 回：H29/8/2 開催 ・ 第 2 回：H29/10/18 開催 ・ 第 3 回：H30/3/19 開催		
保育のお仕事体験 の普及啓発	保育のお仕事体験受入の手引きを活用した保育体験 の実施に向けて、学校及び保育所へ普及啓発を行った。 ・ 県内保育所向け調査の実施(12 月) ・ 県内中学校及び高等学校へ周知(3 月)		
保育所におけるエ ルダー制度導入事 業	・ 17 保育所 [17 保育所] ・ 4 月：育成研修 / 6.7 月：支援員による巡回相談 / 9 月：フォローアップ 加E / 2 月：成果報告会		

[評価] A：目標を達成した B：概ね目標を達成したが見直す点もある C：目標が達成できなかった

平成 29 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見
働きやすい職場づくりに向けた好実践事例集の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4 園の取り組みを紹介予定 ふたばこども園（安来） シオン保育園（隠岐の島町） 吉田こども園（益田） 東保育所（邑南町） 取材（9.10月） 作成（H30.1月） 配布（H30.3月） 			
SNS 等を活用した情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ ツイッター、フェイスブックによる情報発信 (週 1 回更新中) 			
県外保育士養成校における学生と県内保育所との相談会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山口短期大学 6月21日 学生：20名 保育所：6事業所 ・ 鳥取短期大学 6月28日 学生：59名 保育所：14事業所 ・ 美作大学・美作大学短期大学部 7月10日 学生：19名 保育所：12事業所 ・ 広島文化学園大学・広島文化学園短期大学 12月6日 学生11名 保育所9事業所 			
保育士バンクの設置・運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度当初に県内保育士資格保有者（約 10,000人）にダイレクトメールを送るとともに、関係機関の協力のもとに広報活動を展開。 登録者 126 名（松江：104 名、浜田 22 名） 就職者 13 名（松江 9 名、浜田 4 名） 			
保育所体験バスツアーの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松江コース 11/21 9：15～13：00 8名 ひよし第2保育園、しらゆり保育園 ・ 浜田コース 11/24 9：15～13：00 8名 うみかぜ保育園、こくふこども園 ・ 出雲コース 11/28 9：15～13：00 5名 すぎの子保育園、おおつか保育園 			
保育実習生に対する旅費支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 申請件数：108 件 申請額：1,017,500 円 			

[評価] A：順調に進んでいる B：概ね順調に進んでいるが見直す点もある C：あまり順調に進んでいない

平成 29 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価	評価委員による 評価・意見																																																												
<p>(6) 修学資金貸付 介護福祉士修学資金等貸付事業</p> <p>保育士修学資金貸付等事業</p>	<p>介護福祉士等修学資金（募集人数：50 名）</p> <table border="1" data-bbox="562 264 1122 368"> <thead> <tr> <th colspan="2">申込状況</th> <th colspan="2">貸付決定状況</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>金額</th> <th>件数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>39</td> <td>65,307,280</td> <td>39</td> <td>65,307,280</td> </tr> </tbody> </table> <p>介護福祉士実務者研修受講資金（募集人数：30 名）</p> <table border="1" data-bbox="562 416 1122 520"> <thead> <tr> <th colspan="2">申込状況</th> <th colspan="2">貸付決定状況</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>金額</th> <th>件数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29</td> <td>4,631,312</td> <td>29</td> <td>4,631,312</td> </tr> </tbody> </table> <p>離職介護再就職準備金（募集人数：30 名）</p> <table border="1" data-bbox="562 568 1122 671"> <thead> <tr> <th colspan="2">申込状況</th> <th colspan="2">貸付決定状況</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>金額</th> <th>件数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>780,000</td> <td>4</td> <td>780,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>保育士修学資金貸付事業（募集人数：60 名）</p> <table border="1" data-bbox="562 807 1122 903"> <thead> <tr> <th colspan="2">申込状況</th> <th colspan="2">貸付決定状況</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>金額</th> <th>件数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>101</td> <td>146,523,920</td> <td>88</td> <td>132,003,920</td> </tr> </tbody> </table> <p>保育補助者雇上費貸付事業（募集事業所数：10 事業所）</p> <table border="1" data-bbox="562 951 1122 1054"> <thead> <tr> <th colspan="2">申込状況</th> <th colspan="2">貸付決定状況</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>金額</th> <th>件数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>4,217,522</td> <td>3</td> <td>4,217,522</td> </tr> </tbody> </table>	申込状況		貸付決定状況		件数	金額	件数	金額	39	65,307,280	39	65,307,280	申込状況		貸付決定状況		件数	金額	件数	金額	29	4,631,312	29	4,631,312	申込状況		貸付決定状況		件数	金額	件数	金額	4	780,000	4	780,000	申込状況		貸付決定状況		件数	金額	件数	金額	101	146,523,920	88	132,003,920	申込状況		貸付決定状況		件数	金額	件数	金額	3	4,217,522	3	4,217,522	<p>【成果】 修学資金については、介護福祉士及び保育士の利用者確保に資することができた。</p> <p>【課題】 介護福祉士や保育士の掘り起こしや定着を目的とした貸付事業では利用者が少なく、就業や定着へのインセンティブとなっていないと考えられ、その原因を把握し、対応していく必要がある。</p>	<p>評価妥当</p> <p>生活困窮者の相談窓口に来られる方の中に、介護の仕事をしたいという方が一定数おられるので、再就職準備金が役に立つのではないかと。</p> <p>A</p>
申込状況		貸付決定状況																																																													
件数	金額	件数	金額																																																												
39	65,307,280	39	65,307,280																																																												
申込状況		貸付決定状況																																																													
件数	金額	件数	金額																																																												
29	4,631,312	29	4,631,312																																																												
申込状況		貸付決定状況																																																													
件数	金額	件数	金額																																																												
4	780,000	4	780,000																																																												
申込状況		貸付決定状況																																																													
件数	金額	件数	金額																																																												
101	146,523,920	88	132,003,920																																																												
申込状況		貸付決定状況																																																													
件数	金額	件数	金額																																																												
3	4,217,522	3	4,217,522																																																												

[評価] A：順調に進んでいる B：概ね順調に進んでいるが見直す点もある C：あまり順調に進んでいない

平成 29 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価	評価委員による 評価・意見																																				
	<p>保育料一部貸付事業（募集人数：30名）</p> <table border="1" data-bbox="562 245 1120 347"> <thead> <tr> <th colspan="2">申込状況</th> <th colspan="2">貸付決定状況</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>金額</th> <th>件数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15</td> <td>1,866,000</td> <td>15</td> <td>1,866,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>子どもの預かり支援事業利用料金一部貸付事業（募集人数：15名）</p> <table border="1" data-bbox="562 395 1120 497"> <thead> <tr> <th colspan="2">申込状況</th> <th colspan="2">貸付決定状況</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>金額</th> <th>件数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>就職準備金貸付事業（募集人数：20名）</p> <table border="1" data-bbox="562 545 1120 647"> <thead> <tr> <th colspan="2">申込状況</th> <th colspan="2">貸付決定状況</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>金額</th> <th>件数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>1,600,000</td> <td>4</td> <td>1,600,000</td> </tr> </tbody> </table>	申込状況		貸付決定状況		件数	金額	件数	金額	15	1,866,000	15	1,866,000	申込状況		貸付決定状況		件数	金額	件数	金額	0	0	0	0	申込状況		貸付決定状況		件数	金額	件数	金額	4	1,600,000	4	1,600,000		
申込状況		貸付決定状況																																					
件数	金額	件数	金額																																				
15	1,866,000	15	1,866,000																																				
申込状況		貸付決定状況																																					
件数	金額	件数	金額																																				
0	0	0	0																																				
申込状況		貸付決定状況																																					
件数	金額	件数	金額																																				
4	1,600,000	4	1,600,000																																				
<p>(7) 福祉サービス事業 従事者研修の実施 生涯研修課程 人事マネジメント 研修 経営マネジメント 研修 業種・職種別研修 資格支援研修</p>	<table border="1" data-bbox="544 703 1229 970"> <thead> <tr> <th></th> <th>コース数</th> <th>日数</th> <th>受講者数</th> <th>満足度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生涯研修課程</td> <td>4</td> <td>20</td> <td>578</td> <td>4.4</td> </tr> <tr> <td>人事マネジメント研修</td> <td>13</td> <td>30</td> <td>1,618</td> <td>4.4</td> </tr> <tr> <td>経営マネジメント研修</td> <td>10</td> <td>24</td> <td>1,604</td> <td>4.1</td> </tr> <tr> <td>業種・職種別研修</td> <td>18</td> <td>73</td> <td>1,888</td> <td>4.4</td> </tr> <tr> <td>資格支援研修</td> <td>24</td> <td>239</td> <td>2,715</td> <td>4.2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>69</td> <td>386</td> <td>8,403</td> <td>4.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>前年度比 12 コース増、95 日間増、2,095 人増</p>		コース数	日数	受講者数	満足度	生涯研修課程	4	20	578	4.4	人事マネジメント研修	13	30	1,618	4.4	経営マネジメント研修	10	24	1,604	4.1	業種・職種別研修	18	73	1,888	4.4	資格支援研修	24	239	2,715	4.2	計	69	386	8,403	4.3	<p>【成果】 H29 年度に研修体系を見直し、人事・経営マネジメント研修の充実に努めた。その結果、受講者数増につながり、事業所の人事・経営マネジメントの向上が図られた。</p> <p>【課題】 質の高い研修を目指して、人事・経営マネジメント研修の内容をさらに充実させる必要がある。</p>	<p>評価妥当</p> <p>ハラスメントに関する研修に力を入れてもらいたい。</p>	
	コース数	日数	受講者数	満足度																																			
生涯研修課程	4	20	578	4.4																																			
人事マネジメント研修	13	30	1,618	4.4																																			
経営マネジメント研修	10	24	1,604	4.1																																			
業種・職種別研修	18	73	1,888	4.4																																			
資格支援研修	24	239	2,715	4.2																																			
計	69	386	8,403	4.3																																			
<p>(8) 事業者の人材育成・定着化に向けた個別支援 職場研修サポート事業</p>	<table border="1" data-bbox="544 1078 1229 1224"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H28</th> <th>H27</th> <th>H29-28 比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>申込件数</td> <td>182</td> <td>122</td> <td>137</td> <td>60 件増(149%)</td> </tr> <tr> <td>決定件数</td> <td>182</td> <td>122</td> <td>134</td> <td>60 件増(149%)</td> </tr> <tr> <td>派遣件数</td> <td>181</td> <td>122</td> <td>131</td> <td>59 件増(148%)</td> </tr> </tbody> </table>		H29	H28	H27	H29-28 比	申込件数	182	122	137	60 件増(149%)	決定件数	182	122	134	60 件増(149%)	派遣件数	181	122	131	59 件増(148%)	<p>【成果】 職場研修の重要性が浸透した結果、個別研修支援・派遣の件数が前年度比 1.5 倍と大きく増加した。</p> <p>【課題】 一部プログラムへの派遣要請が集中するため、依頼する講師（派遣団体）への負担が大きいため、協力団体の拡大を検討する必要がある。</p>	<p>評価妥当</p>																
	H29	H28	H27	H29-28 比																																			
申込件数	182	122	137	60 件増(149%)																																			
決定件数	182	122	134	60 件増(149%)																																			
派遣件数	181	122	131	59 件増(148%)																																			

[評価] A：順調に進んでいる B：概ね順調に進んでいるが見直す点もある C：あまり順調に進んでいない

中期計画評価委員会 委員名簿

50音順・敬称略

氏名	所属・役職	備考
加川 充浩	島根大学人間科学部福祉社会コース 准教授	委員長
北尾 慶子	島根県社会福祉法人経営者協議会 副会長	
津田 昭美	島根県ことばを育てる親の会 事務局長	
花田 香	NPO法人浜田おやこ劇場 理事長	
三谷 耕司	島根県健康福祉部地域福祉課 課長	
森脇 建二	島根県経営者協会 専務理事	
山本 洋輔	山陰中央新報社 論説委員	
横田 学	NPO法人てごねっと石見 理事長	
和田 征大	Meeting Point 代表	
渡部 英二	出雲市社会福祉協議会 会長	

委員会の開催状況

日時	会場	内容
平成 29 年 11 月 2 日(木) 13:30～15:00	いきいきプラザ島根 401 研修室	1. 第 3 期中期計画等進捗状況について
平成 30 年 5 月 25 日(金) 13:30～16:00	いきいきプラザ島根 1 階共用会議室	1. 平成 29 年度第 3 期中期計画評価について